

## 『多趣味な人生』



### 自由な小学生時代

- ・小学生を振り返ると、自分はいきっていたと感じている。
- ・図工や家庭科が好きで、先生は自分のやりたいようにさせてくれていた。
- ・特に校長先生と遊ぶのが楽しかった。1-3年生は男性、4-6年生が女性だった。1-3年時の校長先生が一番仲が良く、お昼休みに校長室に行って、高級なソファの上でトランポリンしたり、先生を校庭に連れ出して鬼ごっこしたり。
- ・好き嫌いが激しかったので、給食の時間は地獄だった。食べ終わらないと居残り…。牛乳が飲めず、午後の授業は牛乳のビンと一緒にだった。
- ・高学年に上がった時には「図書委員」だった。自分でやってみたいと思い立候補し、図書室の本の整理や貸出をしていた。

### 後悔の中学校時代

- ・環境に適応できなくて、周りから嫌われていた。
- ・友達の人気者で、何をやっても嫌われていた自分のせいにされた。
- ・同級生が突然大人になったような気がして、男性らしさや女性らしさについていけなかった。同級生との距離感に戸惑った。
- ・スマホを持ち始めたのも中学生。LINEで嫌味を言われたり、女子の陰湿なやり取りが嫌だった。
- ・部活はテニス部。先輩後輩関係があまり好きではなかった。正直「たかが1つ2つの違いで...！」と感じていた。
- ・中1の後半で不登校になり、お母さんと外出することが増え、自分の好きなところに結構行けた。ショッピングセンター、ゲームセンターなど自分が行きたいところに連れていってもらえて良かった！

### ティーンズに出会った高校時代

- ・特に何もしなかった、現実逃避の期間。
- ・高1,2の夏あたりからティーンズに通い始めた。もっと早くティーンズに行けば良かった。話せる人がいた。
- ・スクーリング単位認定試験は高1,2はストレスだった。過敏性腸症候群、起立性調節障害の影響で、長時間部屋にいるのがしんどかった。苦しすぎて、高1の時は何度も逃げた。
- ・祖母の介護に中3から追われていた。週5~7おばあちゃんの家までお母さんと一緒に行っていた。高2の時に自宅から近いキャンパスができて、本当は高2から通いたかったが介護の状況で行きたいとは言えなかった。
- ・状況が変わり、高3の7月になって通学型に変更して、毎週木曜日に学校に通うことになった。自分で自分の首を絞めることになったが、通いにして良かったと思う。通うことで出るSSTやプログラミング、任意の課題にやりがいを感じていた。

### ティーンズ後輩へ一言

私はティーンズに来て居場所ができました。

---

小学校：通常級⇒中学校：通常級⇒高校：通信制の高校⇒生活訓練事業所

利用時期：高1～高3

参加プログラム：週4日の個別セッション/月2回のお仕事体験

ティーンズで行っていたこと：日々のスケジュール確認、進路の提案、報連相の練習

---